

こんにやく座のオペラ

since 1971

曾根 雅俊

『こんにやく座のオペラ since1971』
オペラシアターこんにやく座
請求記号●J122-419



皆さんは、こんにやく座という名前を聞いたことがありますか。「名前を知っているけれどそれ何？」という人、「見たことあるよ」という人、いろんな方がいらつしやると思います。かくいう私自身、こんにやく座の公演を見る機会がないまま過ぎしてしまいました。ただ一度だけ、公演にかかわったことがあるので、是非ともこの本を紹介したいと思いました。この本を読めば、この団体の成り立ちから、今に至るまでがわかりますが、簡単に紹介しておきましょう。

1971年、東京芸大の卒業生8人によって結成されました。なぜ「こんにやく座」という名前がついたかというと、当時芸大にあった「こんにやく体操クラブ」が母体になったからで、発足当時のレパートリーは、『河童譚』、『あまんじやくとうりこひめ』だったそうです。そのレパートリーを持って各地の学校を回り、鑑賞教室として上演する、というのが出発点となっています。当時は、巡回公演用のバスに、必要なものを積み、そこに寝泊まりするという形だったそうです。

一つの転機は1974年にありました。4月、新宿の朝日生命ホー

ルで旗揚げ公演が行われました。余談ですが、当時国立音大にはホールと呼べるものがなく、卒業演奏会は、朝日生命ホールを借りて行われていたと思います。この年の9月、『あまんじやくとうりこひめ』の作曲家林光氏が「こんにやく座」による自作の上演を北海道で初めて見たそうです。で、その舞台が仰天するほど面白いものだったので、それが縁となって、新作オペラの委嘱を受け、作曲されたのが『おこんじょうり』でした。そして林氏は「こんにやく座」の音楽監督に就任し、座付作曲家として、様々な改革を行っていました。

1977年、1982年の2度にわたってメンバーの大きな異動がありました。その中でも林氏の新作は上演され、1979年には現代表である作曲家萩京子さんがメンバーに加わっています。

1985年、名称を「オペラシアターこんにやく座」と改め駒沢に、事務所・稽古場を構え、再出発しています。旗揚げから約十年、この間毎年新作オペラが初演されていますが、再出発時、歌い手は4人、座付作曲家の萩さん、スタッフ1人の6人がメンバーだったそうです。記録によるとその頃の公演は、出

演者の多くが客演となっています。その後も新作初演、旧作の新演出による上演が続きますが、1997年には、林氏が芸術監督に、萩さんが音楽監督に就任しています。2006年12月には、宿河原へ事務所・稽古場が移っています。現在の座員数は、約40名だそうです。残念ながら林氏は、今年1月に亡くなり、この本を手に取ることが出来ませんでした。

この本の全体構成は、こんにやく座のオペラ、こんにやく座の活動、こんにやく座の歴史の3部からなります。中でも、こんにやく座オペラ選集と名付けられ、こんにやく座が上演した60を超えるオペラのうち、編集者の判断により重要作品と思われるもの46作品を紹介した部分が、全体の3分の1以上を占めています。活動記録、歴史、関係者によるコメントなども充実しています。映像で見るとこんにやく座のオペラ57+コンサートというDVDもついています。オペラタイトルからの索引しかないのは残念ですが、日本の創作オペラ上演団体の記録として貴重な資料であると思います。

一度手にとってみられてはいかがでしょうか。